

F2-23

山岳信仰集落の変化に着目した門前町の形成に関する一考察
戸隠集落を対象として

A Study on the Formation of Monzenmachi Focusing on the Changes in Mountain Belief Settlements
For the Togakushi community

○梅宮大空¹, 山中新太郎², 三宅貴之²
Taku Umemiya¹, *Shintarou Yamanaka², Takayuki Miyake²

One element that is common to many of Monzenmachi is the approach. However, the relationship between the approach and the town is still unclear. In this study, we conducted a comparative analysis of Togakushi village in Nagano prefecture, which is one of the nine mountainous areas where the old landscape is still relatively intact, using illustrations from the early Meiji period and the present. As a result, in both Hoko-sha and Tyu-sha, the layout of buildings and paths existed before the early Meiji period, while changes such as additions, remodeling, and an increase in paths were observed. The above results suggest that the location of the shrines in important religious sites may be an indicator of the ability to control later changes.

1. 研究の背景と対象の選定

1-1. 背景

門前町^{注1)}は全国各地に存在しており、寺社から伸びる参道を中心として町が形成されている。特に、藤本¹⁾は主体とする社寺が発展後の町の性格に深く影響すると述べており、尾越³⁾の研究では、門前町周辺の要素による影響で、多様に見える発展過程にも通底する特徴があることが明らかにされている。参道は俗世と聖域を連続的な空間体験によって結ぶ役割を持つことが一般的に知られ、船越⁴⁾はその変化を物理量として分析を行なった、山口⁵⁾は写真を活用した印象評価から参道の誘引効果を分析した。このように、門前町の発展過程を明らかにした研究や、古くからの状態を比較的良く残す集落等の門前町では、参道の研究が進展している。

こうした先行研究に対して、本研究では参道や周辺道路、接道の建築などに着目し、この変遷を考察することを目的とする。

1-2. 研究対象の選定

本研究では、藤本¹⁾に掲載されている社寺を中心とした人の集住と町の発展が見られた170の門前町の中から下記の条件で抽出した。①神社を主体とした門前町、②新潟県、山梨県、長野県、静岡県の4県を条件とする。前者は藤本¹⁾より、神社を主体とする門前町では近代以降に信仰の場としての性格が強まっていることが述べられており、現代に至るまで信仰と町の関係性が残存すると考えられる。つまり、参道と門前町の関係性を、町の発展の過程から読み取ることができると考える。後者は田上⁶⁾より、全国の霊山の分布図や社寺の分布図から、主要な霊山が中部以東・近畿・四国・九州に多く分布し、神社は中部に多く位置していることがわかっている。つまり、中部以東の4県には山岳信仰を主とした神社が多く存在すると考えられる。以上二つの抽出条件から、中部以東に位置する門前町の4県を対象として参道と町の関係性を探る(表1)。

表1.4県の門前町のリスト

	門前町	県		門前町	県
1	弥彦・吉田・岩室	新潟県	6	坂城	長野県
2	吉田	山梨県	7	秋葉山	静岡県
3	王滝	長野県	8	御殿場	静岡県
4	下諏訪	長野県	9	富士宮	静岡県
5	戸隠山	長野県			

2. 研究の目的と方法

2-1. 目的

本研究では、先に挙げた9箇所の山岳地帯に位置する門前町のうち、昔の景観が比較的良好に残る長野県戸隠集落を対象とした。近代以降の戸隠集落発展時の変化を追い、制約的な要素について分析し、さらに研究方法についての検討を行う。戸隠は重要伝統的建造物群保存地区(以下「重伝建」という)に指定され、保存・活用に積極的に取り組んでいる。

2-2. 研究方法

近代以降の戸隠の発展における意図や制約等について調査するため、絵図や文献等を用いた過去と現状の比較を行う。しかし、絵図資料は地域によって入手可能な年代にばらつきが見られる。そこで本研究で扱う資料は、山岳信仰と関係の深い修験道等に多大な影響を与えた神仏分離令制定時の明治初期からとする。

3. 戸隠を対象とした検証

3-1. 戸隠集落について

(1) 概要 戸隠は初め、849年に奥院が成立、1058年には宝光院、1087年には中院が成立し、古くから水や農業の神としての信仰を集めていた。かつては、現在の奥社・宝光社・中社の各社の前に居住域があったことがわかっている⁷⁾。しかし図1のように、現存するものは宝光社と中社に限られ、現在では重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

(2) 門前町の特徴 戸隠集落は、2つの社にそれぞれ門前町が構成され、町の基本的な構造や主要な通りの名前が同一である⁷⁾。また、参道沿いは周辺と比較して建築物が少なく、その神聖さが際立つ。一方で周辺の通り沿いには現在では民家が多く立ち並ぶ(図2)。

3-2. 参考資料について

明治初期の戸隠の町の様子を示す資料として「戸隠村乃図」⁹⁾が現存し、建造物と参道の位置、建造物の棟方向及び河川の位置等の情報が得られる。加えて、道路状況等の情報を調査報告書⁷⁾より補完することで、明治初期頃の町の状況把握を行う。また、現在の町の資料として、基盤地図情報⁸⁾を用いる。

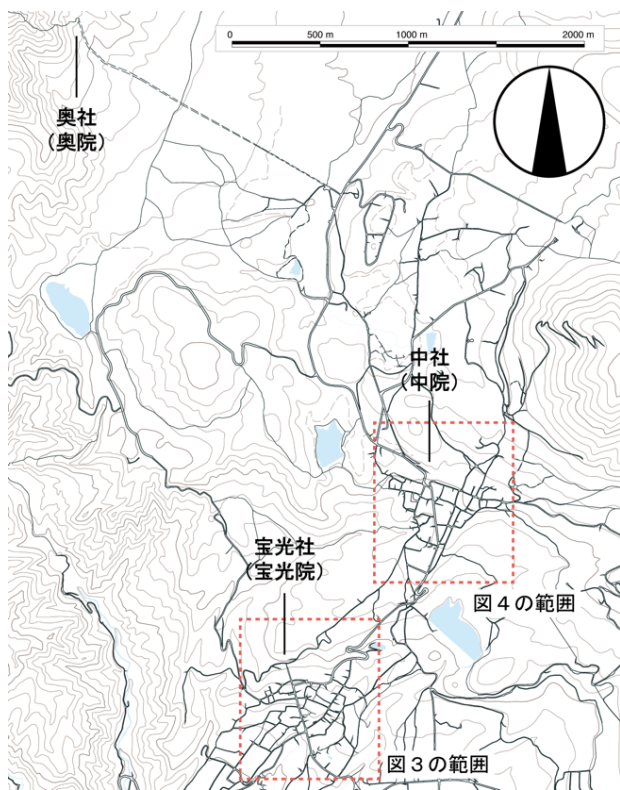
3-3. 絵図による現在との比較分析および考察

宝光社と中社の両地区において、主屋の多くは棟方向を東西に構えている様子が見られ、本社もしくは通

1:日大理工・院(前)・建築 2:日大理工・教員・建築

りを意識した配置であると考えられる。また図3, 図4より, 参道や主要な通りは明治初期以前から存在していることがわかっている⁷⁾ 小道の増加は宝光社と中社で差が見られ, 宝光社では消えた道を多く確認できる。また参道の西側には道が多く新設されている。一方中社では, 大部分の道が明治期以前からあり, 以降はそれを軸に道が新設されているが, 宝光社地区と比較して全体的に変化が少ない。一方で, 主屋の周囲には図5のような増改築や離れが新築され, さらに水路の暗渠化や小道の増加が主な変化として確認される⁷⁾。

以上より, 門前町の骨格となり得る主要道路や参道, 建造物は明治初期以前から存在していた。しかし, 明治期に入ってから増改築や暗渠化は, 観光地化の影響を受けていることが考えられ⁸⁾, 観光客への配慮であると考えられる。また, 林ら¹⁰⁾の研究より, 水源地に信仰が寄せられたことで中社地区は政治的・宗教的な位置にあることがわかっている。つまり戸隠においては, 過去に宗教上重要な位置に立地していたかによって, 後の道路整備等の変化を抑制しうる一指標であると考えられる。



(基盤地図情報⁸⁾ (2024/4/1 更新) より筆者作成

図1. 戸隠集落の社寺の配置



図2. 宝光社地区の参道 (左) と新町通り (右) 注2)

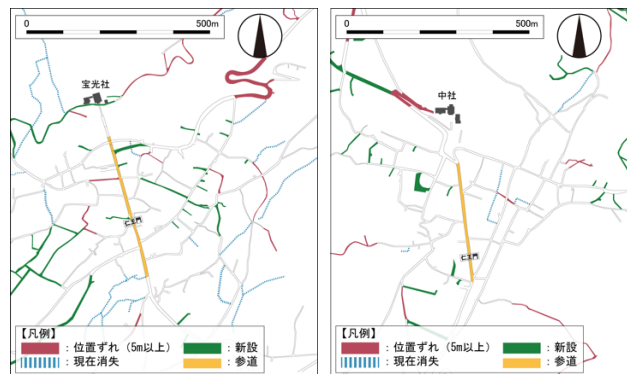


図3. 宝光社地区の変化^{注3)} 図4. 中社地区の変化^{注4)}



図5. 建造物の増改築の様子^{注2)}

4. 今後の展望

現在との比較を行うことで, 集落発展時の制約的な要素について分析することが可能であると考えられる。一方で, 参道空間の周囲への波及効果を分析するため, 参道の段階的な空間変化と周辺の主屋や構造物がどのような影響をけているのか, その分析方法について検討する必要がある。また対象とする4県について, 資料の収集を図る。

5. 脚注および参考文献

- 注1) 藤本¹⁾は門前町にも多様なものがあると述べている。しかし多くの門前町に共通して社寺から参道が続き, 沿道には宿坊や町屋, さらに現在では住宅が立地している。構成要素には山門や鳥居, 宿坊, 灯籠などが挙げられる²⁾。
 注2) 2024/4/24 筆者撮影
 注3) 調査報告書³⁾ 3-6に道に変化箇所を筆者加筆
 注4) 調査報告書³⁾ 3-7に道に変化箇所を筆者加筆
 [1] 藤本利治: 「門前町」, 古今書院, 1970 年出版
 [2] 国土交通省 国土技術政策総合研究所: 「歴史まちづくりの手引き (案)」, 国総研資料第, Vol.723 号, 平成 25 年 2 月, <https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tmn/tmn0723.htm>, 2024/10/01 閲覧
 [3] 尾越林美他: 「門前町の近代都市形成過程に関する研究」, 日本建築学会技術報告集, Vol. 19, No. 42, pp. 725-730, 2013 年 6 月
 [4] 船越徹也: 「参道空間の分節と空間構成要素の分析 (分節点分析・物理量分析)」, 日本建築学会計画理論文報告集, Vol. 384 号, pp. 53-62, 昭和 62 年 2 月
 [5] 山口満也: 「参道空間における空間構成要素の誘引効果に関する研究」, 日本建築学会計画理論文報告集, Vol. 2, pp. 25-31, 2004 年 8 月
 [6] 田上善夫: 「地方における霊山の配置とその影響」, 地理要旨集 2007, pp. 101-101, 2007 年発行
 [7] 長野市教育委員会: 「戸隠-伝統的建造物群保存対策調査報告書」, 2016 年 3 月 25 日発行
 [8] 国土交通省, 国土地理院 基盤地図情報ダウンロードサービス, <https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>, 入手: 2024/09/27
 [9] 長野県立歴史館所蔵, 製作者: 長野県, 「戸隠村之図」, 製作年代: 明治初期, 信州デジタルコモンズ掲載, 2024/09/27 閲覧, https://api.ro-da.jp/v1/shinshu-dcommons/museum_history/03MP150105005/0/images/e655393bf762499b83084e3513666106.jp2/4,436,4025,5237/479,623/0/default.jpg
 [10] 林優希他: 「戸隠御師集落に関する研究-近世修験道における信仰形態の変容と麓集落の空間構成-」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2022 年 9 月